

郡 山

福島民報社賞

藤寿産業



県産木材を用いた高品質の集成材を製造、加工している工場

県産木材の活用を目指し、木造建築物の集成材を開発、製造している。ＪＲ山手線の高輪ゲートウェイ駅や2025（令和7）年大阪・関西万博のシンボルとなる世界最大級の木造の大屋根（リング）などに採用された。
▽電話番号 024（944）7550

県産木材 全国で採用

福島民報社賞 藤寿産業（郡山）



社員一丸となって高い技術力で集成材を製造している藤寿産業

「木造建築は気候変動対策、脱炭素化の推進につながる。県産木材の活用によって、浪江町の「福島高度集成材製造センター（FLAM）」が、福島民報社賞を受賞した。藤寿産業の西村義一社長（62）は社員と喜びを分かち合った。

創業者・故蔭山藤寿さんの思いである「国産材・県産材の利用」と「地元への貢献」を創業から約半世紀にわたって貫いている。県内

「木造建築は気候変動対策、脱炭素化の推進につながる。県産木材の活用によって、浪江町の「福島高度集成材製造センター（FLAM）」が、福島民報社賞を受賞した。藤寿産業の西村義一社長（62）は社員と喜びを分かち合った。

創業者・故蔭山藤寿さんの思いである「国産材・県産材の利用」と「地元への貢献」を創業から約半世紀にわたって貫いている。県内

2019（令和元）年10月、台風19号に伴う豪雨で郡山市の阿武隈川が決壊し、工場の設備や納品予定だった倉庫の製品が浸水した。「同じ場所での事業再開は困難ではないか」。繁忙期を控えて取引先との納品の調整に追われた。壊滅的な被害に不安もよぎる西村社長の背中を押すように社員は声をかけ合い、片付けに汗を流した。社員一丸となって復旧に取り組み1年後、工場を本格的に再稼働した。

東京都のＪＲ山手線の高輪ゲートウェイ駅や2025年大阪・関西万博のシンボルとなる世界最大級の木造の大屋根（リング）などに採用された他、2026年完成予定の東京・日本橋の国内最高層木造ビルにも県産材の製品を納品している。

西村社長は「鉄に勝る強度や耐火性がある木製品の開発に挑戦してきた。高品質な県産材を生かし、地球環境に貢献していく」と決意を語った。